

# 卒後臨床研修に関する意見

日本医師会常任理事

櫻井 秀也

## 卒後臨床研修の充実に関する日本医師会の取り組み①

- 臨床研修懇談会中間報告（平成元年9月）
- 臨床研修懇談会報告（Ⅰ）（平成3年3月）
  
- ・ 医学教育の一貫性を認識し、卒前・卒後の臨床研修・専門教育・生涯教育の連携が重要
  
- ・ 研修受け入れのため、大学病院、臨床研修指定病院の連携が重要
  
- ・ 臨床研修のカリキュラムは、基本を決めた上でそれぞれの自主性多様性を尊重すべき
  
- ・ 教育要員（指導医）の育成のため、研修病院のオープン化を促進し実地医家の参画を推奨
  
- ・ アルバイトなき研修の実現のため、研修医の身分保障、待遇改善が必要であり、政府の努力を求める

## 卒後臨床研修の充実に関する日本医師会の取り組み②

### ○臨床研修懇談会報告（Ⅱ）（平成4年3月）

（Ⅰ）の論点を踏まえ、幾つかの具体的な内容について言及した

- 複数の病院をまたがる研修が効果的であり、それぞれの病院で行われる研修内容は、研修開始当初から相互に補完する計画的なカリキュラムとして示されるべき
- 研修の評価方法についても明確になされる必要がある
- 学会認定制度の認定医カリキュラムの中に、卒後臨床研修の到達目標が含まれるような構造にすることが効果的
- 研修条件をよりよくするため、病院群という概念のもとに施設や指導者の相互乗り入れが効果的である
- 学会、医師会、その他の関係者による合同委員会（臨床研修教育委員会：仮称）を設置

## 卒後臨床研修の充実に関する日本医師会の取り組み③

### ○生涯教育推進会議（VI）（平成8年3月）

- 卒後臨床教育の実態を把握するための調査が必要
- 学部教育との役割分担を明確にするため、医師養成過程全体の見直しが必要
- 研修内容については、必須項目と水準のみを決め、他は自由にすべき
- 全体の計画、プログラム策定、定員の割り振り、評価などを行う第三者機関の設置が必要

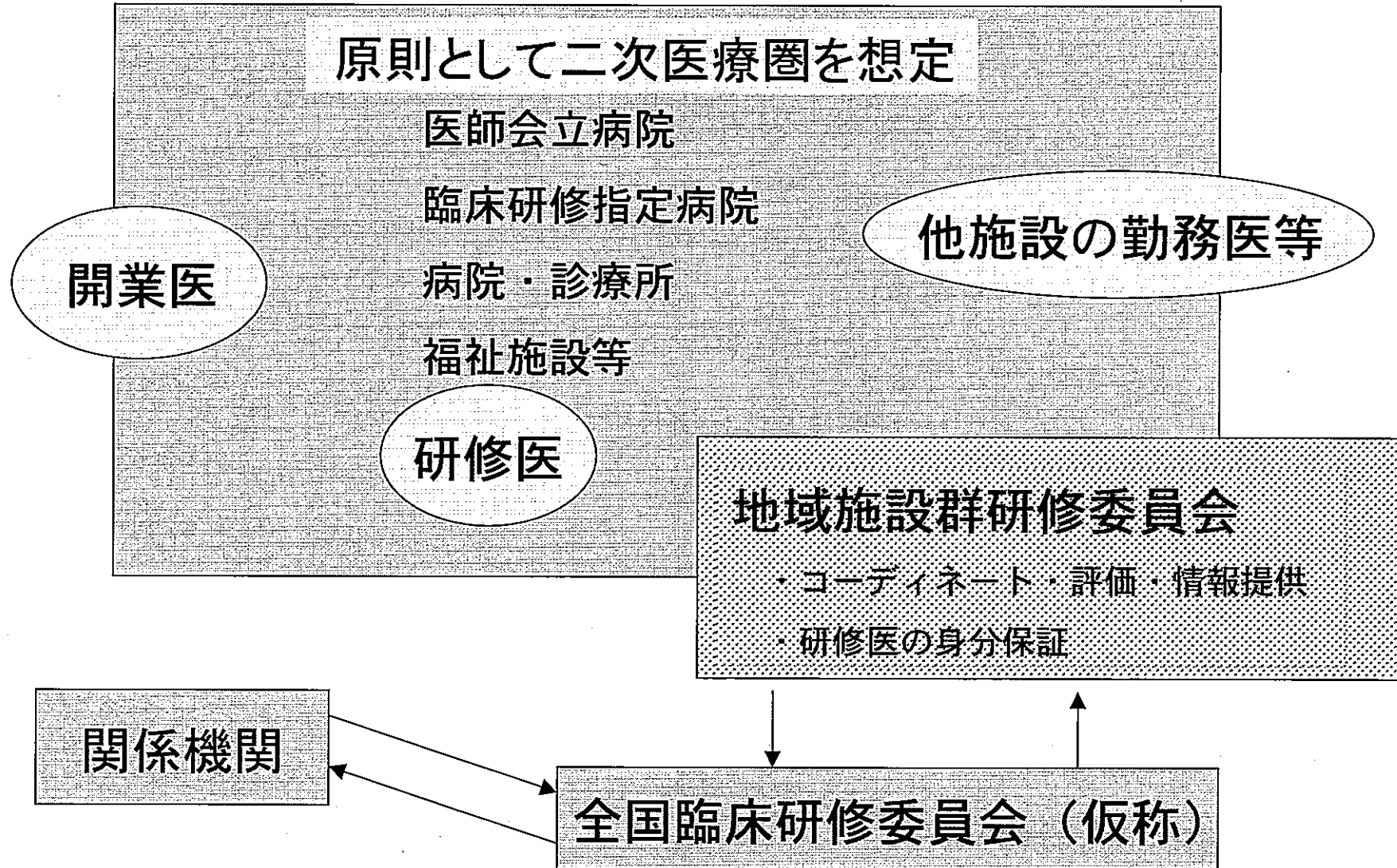
## 臨床医が初期研修終了時に求められる要件

- 外来診療を中心に、基本的な診療態度、医師患者関係の構築ができる。
- 入院治療管理に関しては特殊な疾患よりも一般的な疾患に対応できる。
- 一般的な救急対応が可能となるよう、十分な経験を積むと共に継続的な教育を受けることができるシステムを持つ。
- 精神科領域についても必要な経験を持つ。
- 予防接種や検診など地域医療の実際を理解する。
- 公衆衛生的なアプローチを身に付ける。
- 保険診療や医療システムなどを理解する。
- 患者の安全や診療の質の向上に関する努力を理解する。
- 病診連携など地域における協力体制を理解している。
- 継続的な教育研修を受けようとする基本的な態度を身に付けている。

## 卒後臨床研修に関する基本的な考え方

- 地域医療の担い手となる質の高い医師の養成が求められており、学部教育、卒後臨床教育、生涯教育を一連のものとして実施する体制が必要である。
- 地域医療を担う後輩医師の養成のために、先輩医師集団としてそれぞれのレベルで必要な役割を積極的に担う。
- 大学病院が特定機能病院となっていることを踏まえ、これまでの大学病院偏重を改め、大学病院で研修を行うことを原則禁止とする。
- 病院を単位とした研修ではなく、二次医療圏等適当な地域単位で研修医を受け入れる、複数の医療機関等を利用した研修制度（地域施設群研修委員会方式：仮称）を創設する。
- 到達目標やこれに基づくコアカリキュラムは全国統一のものとするが、具体的な研修プログラムについては、臨床研修指定病院や地域施設群において決定する。
- 研修医自身が研修先を選択できるよう、各指定病院や地域施設群の研修システム、プログラム等についての情報提供を完全に行う。

# 地域施設群研修委員会方式（仮称）のイメージ



## 全国臨床研修委員会（仮称）の役割

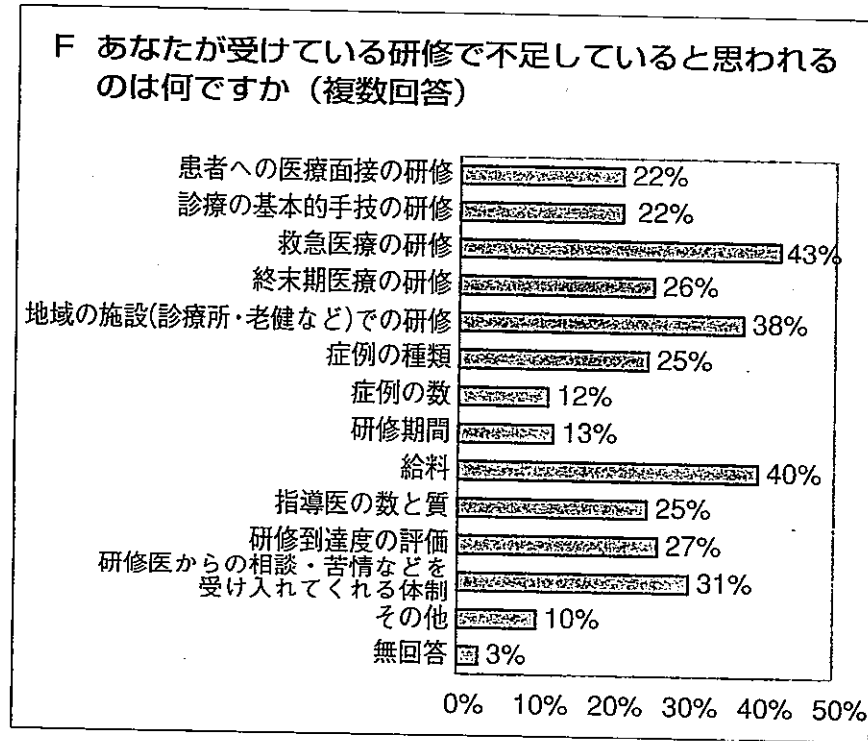
- 医師会、大学病院、臨床研修指定病院、関連施設、省庁、学会、研修指導医、研修医等の卒後臨床教育、医学教育に関係する団体等の代表等で構成する。
- 具体的な到達目標、カリキュラムの骨格、評価方法等を検討し、関係機関に情報を提供する。
- 各地域施設群研修委員会、臨床研修指定病院等の研修のカリキュラムを収集・評価し、研修を受ける者に必要な情報提供を行う。
- 研修希望者と受け入れ機関との全国マッチングに関する事項
- 学部教育や専門教育のあり方に関して関係者とあるべき姿について検討し、随時見直す。



## 地域施設群研修委員会（仮称）の役割

- 研修プログラムの作成
- 関係機関等との連絡調整
- 研修医の募集、決定
- 研修先の決定、スケジュールのコーディネート
- 研修内容、施設、指導医の評価
- 研修医の評価
- 研修医の身分保障（給与の支払い、社会保険等）

(星委員資料)



- 「その他」に、以下の研修内容が「不足している」としてあげられていた。
  - ・倫理面の教育
  - ・保険制度や医事法に関する教育
  - ・プライマリ・ケアの研修
- 研修内容ではないが、
  - ・カンファレンスがない
  - ・日常業務に追われテキストを読む時間がない
  - ・職場環境
  - ・評価のフィード・バック
  - ・スタッフの人数など、研修指導体制に関わるものも見られた。

出典：日本医師会雑誌 第126巻・第7号／平成13年10月1日付

「卒後臨床研修（必修化）に関するアンケート集計結果」

出月康夫、折茂肇、日本医師会生涯教育課